

令和5年9月定例会議 一般質問

5番議員 武井 正広

小中学校における英語教育とプログラミング教育について問う

私は、令和元年9月定例会議にて同様の一般質問を行ったが、この時は、10年ぶりの学習指導要領改訂直前であった。その後、グローバル化やAIなど技術革新が急速に進むこれからの社会を生きていく子どもたちにとってとても重要だと考える英語教育とプログラミング教育は、入念な準備をし本町でも導入された。それから4年、取組みの成果も出てきているとは思いますが、一方で小学校英語においては取得すべき英単語は600～700語と子どもたちへの負担も大きいとの話も聞く。

また、GIGAスクール構想により1人1台端末が実現しプログラミング教育の環境も整った。現代社会が情報技術（IT）により発展し、あらゆる業界や生活を支える基盤となっていることからその基礎教養としてもプログラミング教育はとても重要とされる。

開成町の未来を担う子どもたちが、将来あらゆる分野で活躍出来るよう、英語、プログラミング教育環境を整え充実させていくことは大切と考え、次のことを問う。

1. 本町における小中学校の英語教育の現状の取組み及び課題は。
2. 町独自の特色ある英語教育を展開していこうという考えは。
3. 本町における小中学校のプログラミング教育の現状の取組み及び課題は。